

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 143 号	2013年6月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—6月2日（日）雨の中17名の参加を戴き下記活動いたしました。

① 10時半までは降雨のため環境コミニティ総会報告や生物多様性協議会への活動対応について協議しました。

②引き続いて田植え準備（よけじ溝上げ）および全般の草刈と蓮田のエコアップを行いました。

—6月9日（日）田んぼに注水開始・水戸高さ調整

—6月10日（月）吉富匡さんにて代掻き（縦横掻き）

また原田にて駐車場の草刈（当日観察隊・会員・子ども会が2列駐車するため）

—6月14日（金）苗受け取り・糸張り準備

—6月15日（土）親子自然観察隊「稲作体験 田植え」

9時開始から10時30分、田植えが終わるまで雨も降らず無事終わりました。

例年より、より早く、より整列に植える事が出来ました。収穫が楽しみです。

参加者は観察隊13名・親隊員10名・ジュニア1名、つくる会20名、市環境政策課3名・二俣瀬市民センター1名・公民館1名 総勢49名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者 — 現在のところ計画は有りません

◎行 事

—7月6日（土）維持活動（エコアップ、草刈作業） ※地域の行事のため第一土曜日に
なっております。 須賀河内川の草刈り取りも

—7月10日（水）9時半（株）中国電力の皆様によりボランティア活動（須賀河内川の葦
片づけ）

—7月20日（土）維持活動（エコアップ、草刈作業）

3. 来訪者の声

今月はありません。

4. 会員の声【 新入会員です 】 （ 平林 千春 記）

15日、田植えに参加させていただきました。心配された天候も、雨が降ることなく田植えがしやすい曇りという状況で行うことが出来ました。参加された子どもたちも最初は泥の感触に戸惑いながらも、最後には「不思議な感触だけど気持ちいい」と言っていました。みんな、一生懸命最後まで頑張ってくれていたと思います。田んぼの中には多くのいきものが棲んでいて、新たな発見もあったのではないのでしょうか。私自身、今までに田んぼに入ることがなかったので子どもたちと同様、楽しみながら苗を植えていました。秋の収穫が楽しみです。

私が二俣瀬に来るようになったのは去年の春からで、先輩に教えていただいたのがきっかけでした。もともとビオトープに興味があったことと、地元でエコクラブに入っていたこともありこのような活動をしたと思っていました。2年目の二俣瀬が去年とどのように変わったかを観察できればな、と思います。まだまだ知らないことばかりですが、自分の糧になるようたくさんのことを吸収したいと思います。今後もよろしくお願いします。

5. 親子自然観察隊 「稲作体験 田植え」

朝5時頃より6時半まで大雨が降っており、さすが会員からの作業（田植え）の問い合わせは無かった。ビオトープの申し合わせは活動日に雨が降った場合、とにかく9時東屋に集合し以後活動の決定をすることになっている。9時には完全に雨もやみ前もって色々の準備も功を奏して順調にスタートできた。ビオトープで稲作体験をして頂くのは、3大コンセプトの“自然環境教育の場”として若い親御さんや子どもさんたちに、過ってお爺さん、おばあさんが苦勞して行ってきた稲作の一部を体験実施してもらい、現状行っている機械化農業が如何に簡単であるか又化石エネルギーを使って地球温暖化を促しているか知ってもらう事も我々の活動に有る。

田植えの方法を説明後田んぼに入り、会員と親子観察隊の親御さん、子ども隊員が一行に25名位並び植えながら後ろに下がっていくのである。過って、この地域では田植え定規を使って親子兄弟一家4人～5人が30列位を植えながら下がって行ったのである。自分の範囲が植え遅れると両側の定規支配係が定規を下げる時に向こうずねを思い切り打ちつけられるのである。その痛さを受けないため他の人より自分の範囲を早く植え先に下がっていくのが要領であった。早く下がって自分の足跡をなだらかにしておくのもコツの一つであった。ビオトープではロープに印をつけているので向こうずね打つことはない。がしかし両サイドの綱引きの係がピシッとロープを張ると泥水が跳ねあがり顔にかかるのである。今年は会長も終わりに話されたように、時間も早く、きれいに植えられた事は段々会員も親御さんも子どもさんも手慣れてきたものと思われる。終わってから通例の「膝癒し・ヒザイヤシ」を団子汁によって祝った。今年も沢山のもち米が出来ます様お祈りします。

二俣瀬の子ども会の皆様が都合により参加でいなかったことが非常に残念でした。

親子自然観察隊（6月15日 田植え）に参加した親子の感想



★山本将大くんのお父さん

今年は田植えに参加出来ました。以前はまともに植えなれなかった子供も成長していたみたいで、まっすぐに自分の担当場所を必死に頑張って植えていました。真ん中あたりだったので最後は少し飽きてきていましたが最後まで植えられて良かったです。

植え終わった後を見ても、一つの苗が10本とかにもなっていないくてきちんと植えられていて修正もなく早く終わって何よりでした。

膝いやしでは、一仕事終えたあとの団子汁が大変美味しかったです。

改めて思いますが、昔の農家の方々の苦勞が体験出来て非常に良かったです。



★大井千晶さんと千智さんのお母さん

今日は、蒸し暑い中の田植えでなんとなく親子共々疲れが出ましたが、農業の難しさ、大変さを改めて実感出来たのではないかなと、感じております！

また、一年を通して稲の育ちを体感していきたいなと思います。

★岸田実優さん

今日は、初めて妹と田植え体験をしました。最初は、裸足で田んぼに入るのは、ちょっと嫌だなーと思ったけど入ってみると以外と気持ちよかったです。植えるのは、少しむずかしかったです。

頑張って植えた苗が大きくなって、おいしいお米ができたらしいなと思います。団子汁も、とても美味しかったです。ありがとうございました。



★金子実侑さん

朝は、雨が降っていたので行きたくないな～と思いました。

ドロドロになったけれど、楽しかったです。

最後まで田植えをやったので、つかれました。稲刈りが楽しみです。

★金子さんお母さん

大変お世話になりました。わたし達親子の田植え体験も、何年目になるんでしょうか…。裸足で田んぼに入るのも、大分慣れてきました。前日から雲行きが怪しくなり始め、カップも準備しておりました。朝目覚めたときにも、まだまだ雨脚が強く、大変な田植えになるな～とちょっと心配でした。けれど、ちょうど良い感じの曇り空でしたね。今までは、高学年の子たちにまかせて途中でやめていた3年生の娘も、今回は最後までやり通しました。成長したな～と思います。まだまだ植え方は怪しいですが…。



秋の稲刈り、楽しみです。本当は、稲刈りまでのいろいろ

な作業も体験できるといいなと(体験しなければと)思っています。膝癒しの豚汁おいしくいただきました。ありがとうございました。

★下川拓未くん

初めて田植をしました。上手にできました。

ドショウも初めてみました。とても大きくて触ったらヌルヌルしていました。こおい虫の背中にタマゴが乗っているのも初めてみました。楽しかったです。稲刈りも楽しみです。

★下川くんお母さん

今日はお世話になりました。お疲れさまでした。団子汁おいしかったです。ありがとうございました。

少しの手植えでしたが大変でした。膝癒しの言われを教わり農家の方のご苦労を想像しました。毎日何気なく食べているごはんですがありがたくいただきます。



子どもたちが田んぼで見つけたコオイムシとドジョウ

田植えと昆虫たち (管 哲郎 記)

会長さん以下、会員の皆さまご苦労様でした。田植えに至るまでのご苦労をお察しいたします。無事終了し、今年の山場を越えたような気がいたします。なお、観察隊といたしましてもこの日見られた昆虫たちを2種類だけ紹介しておきます。翅の特に美しかった”ムラサキシジミ”♀と、カラムシという雑草に棲息する”ラミーカミキリ”です。



翅裏の美しいムラサキシジミ♀



カラムシの葉に止まるラミーカミキリ

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 （ 管 哲郎 記）

（6）ヒヌマイトトンボ (*Mortonagrion hirosei* Asahina)

イトトンボ科 ヒメイトトンボ属

ヘドロが堆積しヨシの密集した汽水域などに棲息し、本州では宮城県以南、中国地方では岡山県と山口県、九州では長崎県と大分県で見つかっており、四国では未記録となっています。環境省、山口県では絶滅危惧種ⅠA類にランクされている希少種で棲息場所も局地的です。県内でもかつては11か所の生息地が確認されていましたが、現在では棲息箇所も少し減り、数も少なくなったようです。

山口県では5月半ばごろより7月過ぎまで見られ、6月に最盛期を迎えます。体長は3センチほどで細く、地上や水面より10cm～30cmほどの場所に止まるので、注視しないと見つけにくいトンボです。生息域を同じくするアオモンイトトンボが最大の捕食者のようで、時にはヒヌマイトトンボを駆逐する場合もありうるようで、すでに阿知須干拓の一部の生息地は、アオモンイトトンボにとってかわり、ヒヌマイトトンボの姿が消えてしまった例があります。山陽小野田市でも確認できなくなり、現在では山口市、宇部市、下関市の地域で確認されています。

他のイトトンボによくみられますが、オスと同じ姿をした「同色♀」が山口県にはいます、他で確認されているのは九州だけのようで、全国的にも珍しいようです。



ヒヌマイトトンボ ♂



同色型♀との交尾連結



未熟♀の産卵



成熟した♀

7. 会よりの連絡事項 （事務局より）

（1）新入会員のお知らせ

阿部真季子さん 山大工学部の学生さんです。よろしくお願いいたします。

（2）非定常時作業が7月10日にあります。中電の須賀河内川の刈った葦を片づけです 参加できる方は9時半東屋に参集ください。

8. 編集後記

先日、朝のワイドショーで琵琶湖での外来植物を取り上げていました。琵琶湖の岸辺を覆い尽くし、在来動植物に多大な悪影響を与えているとのことでした。この植物の名前は、“オオバナミズキンバイ”。名前を聞いたとたん、テレビの前に釘づけになりました。もしかして、我がビオトープに咲いているのもこれではないかと。しかし、映像を見る限り違っていました。繁茂している光景は、凄まじいものです。

“オオバナミズキンバイ”の花は、形状及び色こそ“ミズキンバイ”と似ていますが、比べると大きく、茎や葉の裏には細毛があるそうです。繁殖力が旺盛で、茎を切断してもここから新芽が出てきます。このため駆除は、根こそぎおこなう必要があります。ひ弱な“ミズキンバイ”とは大きな違いです。さらに、“ミズキンバイ”と交配する可能性があるそうです。これがビオトープに入ってくれば厄介なことになります。

ネットで調べると、“オオバナミズキンバイ”の繁殖地のいくつかは、人為的に植えられたものだそうです。見栄えのする花のせいでしょうか？困ったものです。外来種の進入を防ぐには、いち早く見つけ駆除することですが、豊富な知識と情報の確保が必要となります。テレビのワイドショーで存在を知るようでは、お話になりません。もう少し時間を割いて、植物に対する知識を身につける必要を痛切に感じました。それまで“ミズキンバイ”の仲間に外来種があるとは、全く知りませんでしたから。

（ 前田 歳朗 記 ）